

都市再生整備計画 事後評価シート  
福島市中心市街地地区(第2期)

令和3年2月

福島県福島市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福島県	市町村名	福島市	地区名	福島市中心市街地地区(第2期)			面積	250 ha					
交付期間	平成27年度～令和2年度	事後評価実施時期	令和2年度	交付対象事業費	401.5百万円	国費率	0.5							
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名											
	基幹事業	道路、(都)腰浜町町庭坂線、高質空間形成施設、(都)腰浜町町庭坂線												
	提案事業	該当無し												
	当初計画から削除した事業		事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
	基幹事業	該当無し												
新たに追加した事業	基幹事業	道路(都)太平寺・岡部線(御山町工区)、地域生活基盤施設(街なか情報板)、高質空間形成施設(大庇美装化)		東京オリンピックの野球・ソフトボール競技開催を受け追加			地方再生コンパクトシティに係る事業により、回遊性の向上と情報発信によるインバウンド効果を図る指標を追加							
	提案事業	該当無し												
交付期間の変更	当初	平成27年度～令和元年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		外国人観光客数(人/日)、福島駅前通り商店街の売上高(万円/年)の指標から効果を計測する。								
	変更	平成27年度～令和2年度												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期			
	指標1	歩行者・自転車交通量	人/日	34,918	H26	35,970	R2	該当無し	28,240	×	あり なし	○	整備効果が一部の調査地点で確認できたが、コロナ禍で従前値よりも下がった。	-
	指標2	中心市街地新規出店舗数	店舗	22	H26	25	R2	該当無し	31	○	あり なし	○	地域医療病院が移転新築され、周辺地域の新規出店舗数が増えた。	-
	指標3	中心市街地居住人口	人	12,471	H26	12,520	R2	該当無し	12,054	×	あり なし	○	人口動態と東日本大震災の原発事故による避難者影響で従前値よりも下がった。	-
	指標4	外国人観光客数	人/日	63	H29	90	R2	該当無し	84	△	あり なし	○	福島駅西口の整備に伴い、観光客をおもてなしするための、雰囲気づくりは評価できる。	-
指標5	福島駅前通り商店街の売上高	万円/年	808,066	H29	814,500	R2	該当無し			あり なし	○		-	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期			
	その他の数値指標1									あり なし				
	その他の数値指標2									あり なし				
その他の数値指標3														
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民参加型のまちづくりを推進したことで住民自らも道路美化活動等に積極的な取組みも見受けられるようになった。</li> <li>商店主と行政との対話の機会も増え、イベント実施などの取組みがし易くなった。</li> </ul>													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	中心市街地活性化基本計画フォローアップ		都市再生整備計画に記載し、実施できた				●	毎年度、中活計画のフォローアップにより、まちの変化の兆候を確認する。					
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した										
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
住民参加プロセス	福島駅前通りリニューアル推進会議 ワーキンググループ 福島駅前通り活性化委員会		都市再生整備計画に記載し、実施できた				●	福島駅前通り活性化委員会が関係団体と連携しながら駅前通りの賑わいをもたらす取組みを検討し実施する。						
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した											
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
持続的なまちづくり体制の構築	ふくしまの道・サポート制度に福島駅前通り商店街振興組合が登録		都市再生整備計画に記載し、実施できた				●	市民の主体的な活動にまかせ、市は後方支援に徹する。						
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した											
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											

## 様式2-2 地区の概要

福島市中心市街地地区(第2期) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
目標		歩行者・自転車交通量	単位:人/日	34,918	H26	35,970	R2	28,240	R2
大目標 ふくしまの個性と魅力を発信する生活都心づくり		中心市街地新規出店舗数	単位:店舗	22	H26	25	R2	31	R2
【目標1 集客拠点づくりと回遊環境の向上】		中心市街地居住人口	単位:人	12,471	H26	12,520	R2	12,054	R2
【目標2 人が暮らし交流できる生活環境の向上】		外国人観光客数	単位:人/日	63	H29	90	R2	84	R1
		福島駅前通り商店街の売上高	単位:万円/年	808,066	H29	814,500	R2		R1

○関連事業(効果促進事業)  
福島駅前通り自転車駐車場整備促進事業

地域生活基盤施設事業(情報板)  
■基幹事業  
地域生活基盤施設(情報板)



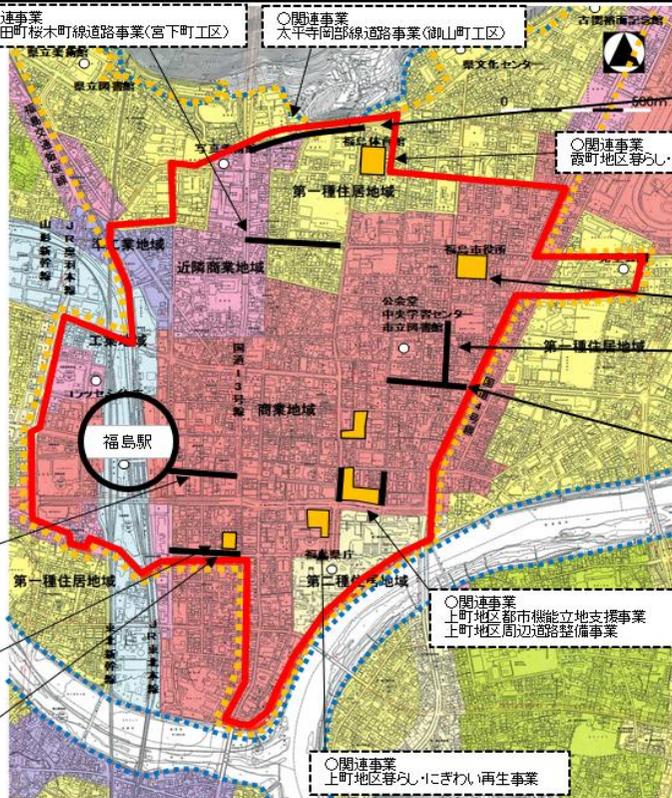
高質空間形成施設(緑化施設等)  
■基幹事業  
高質空間形成施設(大庇装飾)



○関連事業(効果促進事業)  
福島駅前通りリニューアル整備事業  
○関連事業  
県道福島停車場線道路事業  
○関連事業  
(民間まちづくり)活動促進・普及啓発事業  
修景整備事業

○関連事業  
早稲町地区暮らしにぎわい再生事業

○関連事業  
杉妻町早稲町線道路事業



○関連事業  
曾根田町桜木町線道路事業(宮下町工区)

○関連事業  
太平寺岡部線道路事業(御山町工区)

○関連事業  
霞町地区暮らしにぎわい再生事業

○関連事業  
五老内町地区暮らしにぎわい再生事業

○関連事業  
仲宿町春日町線道路事業

○関連事業  
上町地区都市機能立地支援事業  
上町地区周辺の道路整備事業

○関連事業  
上町地区暮らしにぎわい再生事業

(都)太平寺岡部線道路事業  
(御山町工区)  
■基幹事業:道路事業



(都)勝浜町町座敷線道路事業  
■基幹事業  
道路事業:高質空間形成施設



凡例

- 関連事業(効果促進事業) 福島市中心市街地地区事業効果分析
- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業(効果促進事業) 都市構造評価分析事業

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		歩行者・自転車交通量 中心市街地新規出店舗数 中心市街地居住人口	歩行者・自転車交通量 中心市街地新規出店舗数 中心市街地居住人口 外国人観光客数 福島駅前通り商店街の売上高	中心市街地活性化推進のために、地域情報を発信して、福島市の魅力を広く普及伝達する効果指標として、訪れる外国人観光客数と福島駅前通り商店街の年間売上高の2つの定量化指標を追加した。
C. 目標値	●		歩行者・自転車交通量(H27)35,970人/日 中心市街地新規出店舗数(H27)25店舗 中心市街地居住人口(H27)12,560人	歩行者・自転車交通量(R2)35,970人/日 中心市街地新規出店舗数(R2)25店舗 中心市街地居住人口(R2)12,520人 外国人観光客数(R2)90人/日 福島駅前通り商店街の売上高(R2)814,500万円/年	目標年度を当初H31からR2に1年間延長する変更を行い、中心市街地活性化推進のために、地域情報を発信し、福島市の魅力を普及伝達する効果指標として、訪れる外国人観光客数と福島駅前通り商店街の年間売上高の2件の定量化指標を追加した。
D. その他( 計画区域 )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への 影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	(都)腰浜町町庭坂線	35.0	L=83.30m 道路新設	25.5	L=83.30m 道路新設	コスト縮減による事業費減	影響なし	●	
	(都)太平寺岡部線(御山町工区)			104.0	L=450.0m 道路改築	R1に計画変更して追加	影響なし		●
地域生活 基盤施設	情報板			87.0	N=2基	H30に計画変更して追加	地方再生コンパクトシティに係る取組みで回遊性の向上と情報発信を推進のインバウンド効果を図る指標を追加。	●	
高質空間 形成施設	(都)腰浜町町庭坂線	90.0	L=184.3m 緑化施設等	85.0	L=184.3m 緑化施設等	コスト縮減による事業費減	影響なし	●	
	福島駅西口駅前広場 (大庇美化)			100.0	N=1箇所 緑化施設等	R1に計画変更して追加	影響なし	●	

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への 影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
高次都市施設	該当無し								
既存建造物活用事業	該当無し								
都市再生交通 拠点整備事業	該当無し								
土地区画整理 事業(都市再 生)	該当無し								
住宅市街地 総合整備事業	該当無し								

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への 影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業	該当無し								
バリアフリー環境整備事業	該当無し								
優良建築物等整備事業	該当無し								
住宅市街地総合整備事業	該当無し								
街なみ環境整備事業	該当無し								
住宅地区改良事業等	該当無し								
都心共同住宅供給事業	該当無し								
公営住宅等整備	該当無し								
都市再生住宅等整備	該当無し								
防災街区整備事業	該当無し								

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への 影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	該当無し								
事業活用調査	該当無し								
まちづくり 活動推進事業	該当無し								

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		捗状況及び所	備考	
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画			
上町地区都市機能立地支援事業		上町地区		1,440.0		平成27年～平成29年	完了		
効果促進事業(福島駅前リニューアル整備事業)		福島駅前通り	143.0	10.8	平成27年～平成30年	平成27年～平成28年	完了		
効果促進事業(福島市中心市街地地区事業効果分析)		福島市中心市街地地区	2.0	0.5	令和元年	令和2年	完了		
効果促進事業		福島駅周辺自転車駐車場整備促進事業	18.0	17.1	平成27年～平成29年	平成27年～平成29年	完了		
効果促進事業		都市構造評価分析事業	8.0	4.3	平成27年	平成27年	完了		
道路事業(街路)		衫妻町早稲町線街路事業	700.0	700.0	平成27年～令和元年	平成27年～令和3年	実施中		
道路事業(街路)		曾根田町桜木町線街路事業(宮下町工区)	1,006.0	1,128.0	平成23年～平成29年	平成23年～令和6年	実施中		
道路事業(街路)		太平寺岡部線街路事業(御山町工区)	1,061.0	1,188.0	平成23年～平成29年	平成23年～令和6年	実施中		
防災・安全交付金(道路事業)		上町地区周辺道路整備事業	328.0	437.0	平成26年～平成29年	平成26年～令和3年	実施中		
防災・安全交付金(道路事業)		仲間町・春日町線道路事業	650.0	475.6	平成27年～令和元年	平成27年～令和3年	実施中		
暮らし・にぎわい再生事業		上町地区	15,440.0	16,000.0	平成24年～平成29年	平成24年～平成30年	完了		
暮らし・にぎわい再生事業		早稲町地区	4,645.0	4,570.0	平成22年～平成28年	平成22年～平成29年	完了		
暮らし・にぎわい再生事業		五老内町地区	3,868.0	4,000.0	平成22年～令和元年	平成22年～令和元年	実施中		
暮らし・にぎわい再生事業		霞町地区	4,400.0	4,400.0	平成27年～平成30年	平成27年～平成30年	完了		
県道福島駅停車場線道路事業		県道福島停車場線	250.0	250.0	平成27年～平成29年	平成27年～平成29年	完了		
民間まちづくり活動促進普及啓発事業(修景整備事業)		福島駅前通り		80.0		平成30年	完了		
合計			32,519.0	34,701.3					

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし		
指標1	歩行者・自転車交通量	人/日	中心市街地内の9地点における平日と休日の11時間の交通量を計測して合計値を集計して、7日間の加重平均値を算出した。	-		34,918	H26	35,970	R2	モニタリング	H30	34,012	モニタリング	×		●
										事後評価(R2)	確定見込み	●	28,240	事後評価		
指標2	中心市街地新規出店舗数	店舗	調査区域6地区における新規出店舗数を集計した。	-		22	H26	25	R2	モニタリング	H30	34	モニタリング	○		●
										事後評価(R2)	確定見込み	●	31	事後評価		
指標3	中心市街地居住人口	人	住民基本台帳から中心市街地の居住人口を集計した。	-		12,471	H26	12,520	R2	モニタリング	H30	12,102	モニタリング	×		●
										事後評価(R2)	確定見込み	●	12,054	事後評価		
指標4	外国人観光客数	人/日	RESAS(地域経済分析システム)から外国人訪問客のうち観光目的を求め、福島市を訪れる外国人訪問客に乗じて集計した。	-		63	H29	90	R2	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価(R1)	確定見込み	●	84	事後評価		
指標5	福島駅前通り商店街の売上高	万円/年	福島駅前通り商店街振興組合に加入している商業系18店舗へのヒアリング調査から集計した。	-		808,066	H29	814,500	R2	モニタリング			モニタリング			
										事後評価(R1)	確定見込み			事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	朝ドラ「エール」の取組みとして、空き店舗を活用した「古閑裕やまちなか青春館」の開館と主人公地元の盛り上がり効果があった一方で、コロナ禍の影響や駅前百貨店の閉店等により、1年以内の数値目標の達成見込みは困難であると判断した。	令和3年4月には、福島県立医科大学保健科学部が開校することとなっているため、学生等の新たな効果に期待したい。
指標2	福島駅前通りのリニューアルや大原記念総合病院の移転新築等の都市基盤整備や令和3年4月開校予定の福島県立医科大学保健科学部の期待値の効果から目標の25店から31店舗となり、数値目標を達成した。	
指標3	少子・高齢化と若者の流出が考えられ、従前値よりも低くなった。目標達成するだけの住宅供給の動きも感じられないことから、1年以内の数値目標の達成見込みは困難であると判断した。	
指標4	コロナ禍に伴い、水際対策の強化に係る措置として外国人の入国を規制している。今後、入国の規制緩和が見通すことができないため、1年以内の数値目標の達成見込みは困難であると判断した。	コロナ禍ではあるが、今後の傾向を踏まえた達成度合いを確認する必要がある。
指標5	駅前百貨店の閉店とコロナ禍の影響等から商業系店舗のヒアリングを実施することができなかった。	従前テナントも変わっており、調査に協力してもらうことが難しい側面がある。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合あり●●

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課 題等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度			
その他の 数値指標1							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標2							モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標3							モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等	
中心市街地活性化基本計画フォローアップ ・歩行者・自転車交通量 ・中心市街地新規出店舗数 ・中心市街地居住人口	予定どおり実施した	【実施頻度】1回/年 【実施期間】平成27年度～令和2年度 【実施結果】採用した3つの指標は、中心市街地活性化基本計画フォローアップにより毎年度、数値が整理されているものなので、モニタリングを容易に実施することができ、かつ、交付期間途中に実施完了した事業の効果を確認することができた。	毎年度、中心市街地活性化基本計画のフォローアップにより、まちの変化を確認する。	
	予定はなかったが実施した			●
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等	
・福島駅前通りリニューアル推進会議 ・福島駅前通りリニューアルWG ・福島駅前通り活性化委員会	予定どおり実施した	【実施頻度】推進会議11回、WG21回、活性化委員会1回 【実施期間】平成27年度～平成30年度 【実施結果】県道福島駅前通り線道路事業や民間まちづくり活動促進普及啓発事業(修景整備事業)等を計画段階から住民の意見を聞いて合意形成を図ったため、持続的なまちづくりの体制の組織化に発展した。	福島駅前通り活性化委員会が関係団体と連携しながら駅前通りの賑わいをもたらすイベント等の取組みを実施する。	
	予定はなかったが実施した			●
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等	
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要		
福島駅前通り商店街振興組合がふくしまの道・サポート制度を活用する団体として登録	予定どおり実施した	福島駅前通りリニューアル整備後、ふくしまの道・サポート制度に登録し、日常的な道路美化活動に取り組む。また、福島駅前通り景観まちづくり協定に基づく取組みの推進も行う。	福島駅前通り活性化委員会 福島駅前通り整備事業の効果を高めるため、景観形成事業をはじめ活性化に向けた各種事業の円滑な推進と賑わい溢れ魅力あるまちづくりに取り組む。	令和3年4月に開校予定されている福島県立医科大学保健科学部と再開発事業と連携しながら市民が自発的に活動する。	
	予定はなかったが実施した				●
	予定したが実施できなかった (理由)				
	予定どおり実施した				
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由)				

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(庁内検討会議)	都市計画課、市街地整備課、交通政策課、道路建設課	令和2年12月28日	都市計画課(都市再生整備計画担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2	指標	指標	指標		
指標名		中心市街地新規出店舗数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(都)腰浜町町庭坂線	○	従来から取り組んでいた(都)腰浜町町庭坂線の開通と上町地区都市機能立地支援事業(上町地区)の大原総合病院が移転新築されたことで新規出店舗数に繋がった。				
	道路(都)太平寺岡部線 御山町工区	△					
	地域生活基盤施設(街なか情報板)	○					
	高質空間形成施設(都)腰浜町町庭坂線	○					
	高質空間形成施設(大庇美装化)	○					
提案事業	(該当無し)						
関連事業	上町地区都市機能立地支援事業(上町地区)	◎					
	福島駅前リニューアル整備事業	◎					
	福島市中心市街地地区事業効果分析	-					
	福島駅周辺自転車駐車場整備促進事業	○					
	都市構造評価分析事業	-					
	杉妻町早稲町線街路事業	-					
	曾根田町桜木町線街路事業(宮下町工区)	-					
	太平寺岡部線街路事業(御山町工区)	-					
	上町地区周辺道路整備事業	◎					
	仲間町・春日町線道路事業	△					
	暮らし・にぎわい再生事業(上町地区)	◎					
	暮らし・にぎわい再生事業(早稲町地区)	◎					
	暮らし・にぎわい再生事業(五老内町地区)	△					
	暮らし・にぎわい再生事業(霞町地区)	◎					
	県道福島停車場線道路事業	◎					
民間まちづくり活動促進普及啓発事業(修景整備・福島駅前通り)	◎						

※指標改善への貢献度  
 ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。  
 ○: 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。  
 △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。  
 -: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	コロナ禍の影響について、継続調査する。			
-------	---------------------	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1			指標3			指標4			指標5		
指標名		歩行者・自転車通行量			中心市街地居住人口			外国人観光客数			福島駅前通り商店街の売上高		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(都)腰浜町庭坂線	△			-			-					
	道路(都)太平寺岡部線(御山町工区)	×			-			-					
	地域生活基盤施設(街なか情報板)	△			-			△					
	高質空間形成施設(都)腰浜町庭坂線	△			-			-					
	高質空間形成施設(大庇美化)	△			-			△					
提案事業	(該当無し)		上町地区都市機能立地支援事業(上町地区)		上町地区都市機能立地支援事業と暮らし・にぎわい再生事業(早稲町地区)は効果はあったものの、それ以上に人口動態や東日本大震災の影響による原発事故の避難が直接的要因である。	III	III		地域生活基盤施設(街なか情報板)や高質空間形成施設(大庇美化)の整備に伴い、外国人観光客を受け入れる環境は整ったことは評価できる。	I			
関連事業	福島駅前リニューアル整備事業	△	事業と暮らし・にぎわい再生事業(早稲町地区)の整備効果が一部の調査地点で少しづつ効果が確認された。しかし、コロナ禍の影響が直接的要因である。	III									
	福島市中心市街地地区事業効果分析	-											
	福島駅周辺自転車駐車場整備促進事業	△											
	都市構造評価分析事業	-											
	杉妻町早稲町線街路事業	×											
	曾根田町桜木町線街路事業(宮下町工区)	×											
	太平寺岡部線街路事業(御山町工区)	×											
	上町地区周辺道路整備事業	△											
	仲間町・春日町線道路事業	×											
	暮らし・にぎわい再生事業(上町地区)	△				△							
	暮らし・にぎわい再生事業(早稲町地区)	△				△							
	暮らし・にぎわい再生事業(五老内町地区)	×				×							
	暮らし・にぎわい再生事業(霞町地区)	△				×							
	県道福島停車場線道路事業	△				-							
民間まちづくり活動促進普及啓発事業(修景整備・福島駅前通り)	△				-								

※目標未達成への影響度  
 ××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。  
 ×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。  
 △:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたとと思われる。  
 -:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類  
 分類Ⅰ:内的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類Ⅱ:外的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類Ⅲ:外的な要因で、予見が不可能な要因。  
 分類Ⅳ:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	新しい生活様式を意識した、来街を誘うイベントを開催する。	移住・定住を促進するPR動画等の取組みを強化する。	外国人観光客数を継続的に調査するとともに街なか情報板のコンテンツを随時更新できる仕組みづくりを強化する。
------------------	------------------------------	---------------------------	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(庁内検討会議)	都市計画課、市街地整備課、交通政策課、道路建設課	令和2年12月28日	都市計画課(都市再生整備計画担当課)

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載した まちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
・地域医療施設を福島駅の東西軸線上に移転新築することでこれまでの南北軸の賑わいを東西軸に拡散させることが必要。	・医療施設が移転新築され、東西軸の核となっている。	・拠点施設を整備した南北・東西軸線上では、歩行者・自転車通行量の効果が現れている一方で、それ以外では効果が希薄である。	・南北・東西軸線上に拠点施設を整備した結果、人の流れを作ることができた。しかし、拠点施設を行き交う流れのみで街なか回遊まで至っていない。
・街なかから中心地外周部の観光拠点施設等に回遊させることが必要。	・街なか情報板や福島駅西口大庇美装化の整備によって福島駅西口のイメージアップとなった。	・街なか情報板を活用した観光PRを最新トピックスにする体制づくりが必要である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	・商店街の魅力創出と情報発信を強化する取組みが必要である。	・主たる基盤整備(ハード)は、ほぼ完了し達成した。今後は活用(ソフト)することが必要である。 ・賑わい持続の取組みは、商店街の住民が主体となって推進し、行政は側面支援として取り組む必要がある。	・商店街が主体的に繰り返しイベントを開催し効果を検証する取組み。

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	・街なか情報板を活用する取組みが必要である。	・情報板が認知不足のため、一層のPR強化を検討する必要がある。	・情報板の愛称を募集し、広く市民の方に周知すると共にパブリックビューイング等で活用する。
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

✓	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
✓	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
✓	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
✓	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
✓	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

**添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画**

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み		あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	歩行者・自転車交通量	人/日	34,918	H26	35,970	R2	確定 ●	28,240	×	あり				
							見込み			なし				
指標2	中心市街地新規出店舗数	店舗	22	H26	25	R2	確定 ●	31	○	あり				
							見込み			なし				
指標3	中心市街地居住人口	人	12,471	H26	12,520	R2	確定 ●	12,054	×	あり				
							見込み			なし				
指標4	外国人観光客数	人/日	63	H29	90	R1	確定 ●	84	△	あり				
							見込み			なし				
指標5	福島駅前通り商店街の売上高	万円/年	808,066	H29	814,500	R1	確定			あり				
							見込み			なし				
その他の数値指標1							確定							
							見込み							
その他の数値指標2							確定							
							見込み							
その他の数値指標3							確定							
							見込み							

**添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方**

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・モニタリングを実施したことにより、医療施設の開院に伴って新規出店数と歩行者・自転車通行量の効果を確認することができた。	・簡易計測可能な指標設定とし、調査範囲をスポットにすることでモニタリングが容易となるように検討することが望ましい。
	うまくいかなかった点	・商店街売上高を指標は、従前からテナントが変わり、店舗に対するヒアリングに応じてもらえなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・県道福島停車場線道路事業や福島駅前通りのリニューアル整備事業を計画段階から福島駅前通り商店街振興組合と共に検討したことでふくしまの道・サポート制度に登録し道路美化活動に取り組むことになった。	・都市再生整備計画の作成時から目標の実現のために重要な役割を果たす住民と共に活動内容も定めながら計画する。
	うまくいかなかった点	特になし	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	
その他	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	

**添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)**

### (5) 事後評価原案の公表

#### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載して公開	令和3年1月13日～1月27日	令和3年1月13日～1月27日	都市計画課への郵便、FAX、Eメールなど	都市計画課 (都市再生整備計画担当課)
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	特に意見なし				
-------	--------	--	--	--	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	西内みなみ 桜の聖母短期大学学長	第1回(令和2年12月21日) 第2回(令和3年2月19日)	都市計画課	福島市社会資本整備総合交付金評価委員会設置要綱	福島市都市計画審議会 福島市景観審議会
その他の委員	小河日出男 福島市商店街連合会会長 小野 國武 中央東地区自治振興協議会会長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施された。
	成果の評価	・中心市街地新規出店舗数は、確かに数値目標を達成しているが、今後、コロナ禍の影響で空き店舗の増加も考えられることから継続調査を行いながらまちの変化の兆しを把握する必要がある。
	実施過程の評価	・県道福島駅前停車場線道路事業や福島駅前通りのリニューアル整備事業を計画段階から福島駅前通り商店街振興組合と共に検討したことで、ふくしまの道・サポート制度に登録し、道路美化活動に大いに寄与した。
	効果発現要因の整理	・(都)腰浜町町庭坂線と上町地区都市機能立地支援事業(上町地区)から大原総合病院が移転新築が開院されたことで新規出店舗数が期待値になった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、市民に分かりやすく公表されたことが確認された。
	その他	・駅前再開発事業と連携し新しいコンテンツを見出す取組みも必要である。 ・駅前再開発事業の工事期間中に駅前が衰退しないようにイベント等の賑やかな取組みが必要である。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当である。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・観光等の情報発信が不足しているので街なか情報板を使いながら観光PRに取り組む必要がある。 ・市内にとらわれず福島圏域の広域的な視点をもって取り組む必要がある。 ・福島の玄関口としてエールポストやDESTINATIONキャンペーン等と連携したソフト事業の展開が必要である。 ・市内の3大学、2短期大学、市及び市内の企業等からなる「ふくしま市産官学連携プラットフォーム」と連携し、学生等の意見を聞きながら新しいコンテンツを検討する必要がある。
	フォローアップ	・特になし。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・妥当である。
その他		・特になし。

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

## (7) 有識者からの意見聴取

### 添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--